

劣化損傷した実橋梁などを見学してきました ～茨木技術研修センター I-TR(アイトレ)～

日 時:平成29年12月20日(水)
場 所:茨木技術研修センター I-TR(アイトレ)
大阪府茨木市上穂積4丁目10-1
参加者:京都国道事務所の若手職員他 10名

- 最初に、日本の道路整備、高速道路の歴史の説明を頂き、当時の資料などを拝見。
- 土木実習室では、高速の舗装では使わない骨材などを手で触り、その違い確認。
- 最後に、劣化損傷した実橋梁を点検ハンマーでたたき、音の違いによる劣化部分の確認を体験しました。

参加者の声

- 劣化損傷した橋梁などを目の当たりにし、一見強固に見える構造物も、中身は経年劣化によるさびやコンクリートの亀裂などがあり、とても脆くなっているという事実には危機感を覚えました。近い将来、南海トラフ地震が来ると言われている西日本では特に耐震化と併せて、老朽化したインフラの取り替え・整備を早急に行う必要があると強く感じました。
- 今回、NEXCOのI-TRを見学させていただき、高速道路の歴史や道路の構造等、様々なことを学ぶことができました。実際の床版を使い、劣化箇所とそうでない場所の打音の違いなども体験でき、良い経験となりました。事務官にとっては耳慣れない言葉も多くありましたが、分かりやすく丁寧に説明していただき、大変勉強になりました。
- 阪神大震災で被災した橋脚など、施設には貴重な資料が多く展示しており、そういった過去の経験が教訓となり現在の構造物の基準や設計思想として活かされていることを知った。
- 日本の高速道路がどのように発展してきたのかを分かりやすく説明してくださり、非常に価値のある時間を過ごさせていただきました。全体が錆びている支承を実際に見た時は、点検を適切に行わないと重大事故につながってしまうということを再認識することができました。
- 現場で見る構造物は概ね健全の状態であり、現場で実際に修繕を行わなければならない構造物を見るのが少ないため、実際に修繕を行わなければならない構造物を見れたことは、非常によかった。このような経験を活かして、今後、現場に行った際には、同様のことが起こっていないかを感じ取れるようになりたい。



竹野センター長の分かりやすい説明



劣化損傷した実橋梁



点検ハンマーで劣化部分を確認